



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	第3学年 英語「I live in ~.」(II 実践報告 アクティブ・ラーニングの授業実践8) (fulltext)
Author(s)	久保,幸恵
Citation	研究紀要 / 東京学芸大学附属大泉小学校, 28: 304-307
Issue Date	2017-08
URL	http://hdl.handle.net/2309/148839
Publisher	東京学芸大学附属大泉小学校
Rights	

8 アクティブ・ラーニングの授業実践⑧

第3学年 英語「I live in ～.」

実施 平成29年1月

対象 3年きく組 29名

授業者 久保 幸恵

1. 単元名 「I live in ～.」

2. 単元の目標

- 英語でやり取りすることや文字遊びを進んで楽しもうとする。
- 住んでいるところについて、聴いて推測できるようになる。

3. 評価規準

コミュニケーションの 関心・意欲・態度	英語らしいリズムを大切に聴いたり歌ったりする。	
	住んでいるところについて英語で話している内容を推測できる。 I live in～.の英語表現を聴いて分かる。	
言語運用能力	input	I /You live in～. He/ She lives in ～. Do you live in ～? Who lives in～? Where does he/she live? 色・動物
言語や文化についての知識・理解	アルファベットの特徴を認識する。	

4. 単元について

(1) 指導計画 (全3時間)

- 第1時 ・読み聞かせを通して、“I live in～”の表現に触れる。
・アニメキャラクターが、住んでいるところの紹介をたくさん聴くことで、“I live in～”が「私は、～に住んでいる。」を指していることを知る。
- 第2時 ・読み聞かせを通して、動物が、どこの動物園に住んでいるかを推測したり尋ねたりする。
(本時) ・“Who is he/ she ~?” クイズを通して、“He/She lives in～.” の表現を聴いて分かる。
・アルファベットを使った簡単な活動を通して、アルファベットの形を認識できるようにする。
- 第3時 ・Sit down game を通して、“Do you live in ~?”, “Who lives in~?” の英語表現をたくさん聴く。
・自分が住んでいるところについて質問に答えたり、紹介したりする。

(2) 本時の教材について

今回の単元は、動物園の動物や友達が住んでいるところをたくさん聴くことで、住んでいるところを表現する仕方が分かり、自分の住んでいるところを表現できるようになると考えた。その中で、自分以外の人、つまり、Iではなく、He, Sheという存在も扱った。日本語では、会話の中で「彼」「彼女」と表現することはあまりなく、児童にとっても馴染みにくさがあった。ただ、教師の英語を聴く

うちに、He なら男の子のことかな、She なら女の子のことかなと、自分で推測できるようになってきた。今回も I だから live, He, She だから lives と教えたり、何度も言わせて覚えさせたりせず、たくさん聴くことや、その場の状況から児童が推測することで、live, lives の違いに気付く児童が出てきた。本校の児童は、様々な地域から通学している。それ故、友達が住んでいるところを聴いたり、自分が住んでいるところを言ったりすることには意味があり、興味をもって聴くことができた。なお、本時では文字遊びも行った。ローマ字ではないアルファベットそのものに注目し、文字に興味をもてるようにと組んだ活動である。本学級の児童の多くは、英語の授業が好きで意欲的に活動をしている。ただ、クラス替えをした後、1学期は、英語に限らず自分の考えに自信がもてないとなかなか発言できないなど、発言に対して慎重な児童が多い学級であった。そこで、1学期、2学期とも、英語活動のスタートには歌を歌って授業を始めることで、英語の音のリズムに馴染み、まずは英語で聴くことが楽しいと思えることに重きを置いてきた。同時に、児童が、英語活動の中で英語を聴く際、授業中に使用される英語を多少理解できなくても、前後の話や場の状況から推測することで、自分自身が英語を聴けるようになってきたという実感がもてるようにと考え授業創りもしている。

5. 「アクティブ・ラーニング」の視点

本校では児童に英語の表現を数多く input することを大切にしている。もちろん output することも望ましいが、それを目標にはしていない。それ故、output はあくまでも input をたくさん積み重ねた末に自然と出てくるものであると考えているのである。

この授業をアクティブ・ラーニングの視点で考えるとき、児童が「〇〇は、どこに住んでいるのだろうか？」という疑問をもち、進んで聴く。このことが児童の主体的な活動である。教師からの質問に対して応えたり、動物や友達が住んでいるところを推測したりすることを通して、児童自身が教師の言っている英語をさらに聴きたいと思う。「I live in ~.」は、児童が主体的に言葉と関わっているうちに「あ！そうか。先生は、住んでいるところのことを話しているのだ。」となり、そこに教師との対話も生まれる。単元の最後の活動では、自分が、住んでいるところを答えていく活動を行う。自分が住んでいることを伝えたいという児童の思いと同時に、クラスの友達が多く住んでいるところはどこか知りたいという思いもあるので、言いたい、聴きたい、につながっていく。このように、input をたっぷり行った末に output が出てくるような活動を行った。児童同士が、お互いに覚えてたの英語で質問し合わなくても対話的な学びは得られると考えている。

6. 本時について

(1) 本時の目標

- ・動物や友達が、どこに住んでいるか推測する活動を通して、“I live in ~.”を分かるようになる。
- ・すすんでアルファベットの形に注目し、その形を認識する。

(2) 本時の展開

○学習活動 T使用する英語 C予想される児童の反応	◇指導上の留意点
○歌を歌った。“The Grand Duke of York” T: Let’s sing “The Grand Duke of York” T: This time, We’re going to sing with actions.	◇今月の歌である“The Grand Duke of York”を歌い、英語のリズムに触れ楽しく活動をスタートできるようにした。 ◇身振りをつけることで、歌詞をより身近に感じて歌えるようにした。

○「ほんとの大きき動物園」で“Who am I” クイズをした。

T: I live in Gunma.

I live in Gunma safari park.

My birthday is May.

Who am I?

C1: Tiger ?

C2 :Bite ?

群馬に住んでいる動物、何匹かいたよね。



T: Yes. I'm Bite.

I live in Chiba.

I live in Ichihara.

My birthday is May.

Who am I?

C2: Elephant.

T: Yes. I'm Yumeka

I live in Ichihara zo no ie.

Do you remember my mother?

C3:お母さん…。

5月生まれは、けっこう多かったな。わたしの誕生日といっしょだから…。

◇前時でも使った「ほんとのおおきき動物園」を再び使うことで、児童が動物たちの住んでいるところに興味をもって聴くことができた。

◇住んでいるところを始めるヒントで話すようにすることで“I live in ~.” が耳に馴染みやすかった。

◇「ほんとのおおきき動物園」は、写真だけでなく、その動物のすまい、名前、性別、誕生日の情報がある。特に、誕生日は、誕生月という前時までには学んだことを活かすことができた。



そうそう。たぶん、バイトかな。

◇活動が単調にならないよう、時に名前を英語で問いかけるなど児童とやりとりを行った。



○“Who is he/ she ~?” クイズ

・担任の住んでいるところについて聴いた。

T: I live in Higashi Oizumi.

I live near Oizumi Minami elementary school.

I live near Oizumi Gakuen station.

C4:Higashi-Oizumi?

・友達の住んでいるところなどの紹介を聞いてだれのことを話しているのか推測した。

T: We do “Who is he/she?” game.

He lives in Nerima-Ward.

He lives near Shakuji-Koen Station.

His birthday is January.

Who is he?

C5:Nerima-Ward?

◇担任の住んでいるところを紹介することで、“I live in ~.”という表現をさらに input した。

◇住んでいる区市、最寄り駅、誕生月を取り上げていった。

◇「どこに住んでいる友達が多いか」と投げかけることで興味をもって聞けるようにした。

◇テンポよく行い、児童が、クラス全員について聴けるようにした。

石神井公園の駅使っているのはだれだっけ。





練馬区に住んでいる人たくさんいるよね。

C6: He, だよ。男子だ。

C7: ○○くん。

T: Yes, he is ○○.

C8: He lives in Nerima-Ward.

He lives near Shakuji-Koen Station.

T: How many students live in Nerima-Ward.

C9: 20!

T: Who lives in Nerima-Ward.

C10: ○○, □□・・・。

○文字遊び

T: Let's draw pictures with alphabet.

“V” looks like a cone.



T: What letter do you want to use?

C11: “A”

C12: A を逆さまにするのだね。なるほど！

◇ただ、誰のことかを伝えるのではなく、再び、He/She lives in~.の input を行う。

◇児童が集中して聴けるように、誰が練馬区に住んでいるのかなど、時々児童と確認する。

◇大文字を使って絵を描こうと呼びかけ、アルファベットの形に注目できるようにするした。



A は、ジュースのコップにできるよ。

◇文字遊びを通して、アルファベットの形を認識できるようになった。

(3) 評価

- ・ I live in~.の英語表現を聞いたり、その意味を推測したりできる。
- ・ アルファベットの印象からすすんでそれぞれの形をとらえようとする。

7. 考察

本時の学習での成果は、I live in~. He/She lives in~.が、住んでいるところを話す表現であるとの児童も聞き取り認識することができたことである。また、アルファベットの形に注目することで、ただ書いて覚えるものとしての文字ではなく、捉えて認識する文字になったことである。また、単元の終わりには、Where do you live?と問われて、I live in~.と文で答えられる児童も出てきたことである。

また、課題としては、アクティブ・ラーニングの視点でいうと、児童が興味を持って聴き、I live in~. He/She lives in~.を理解することができたことは良かったが、I live in~.と言う表現自体にバリエーションをもたせたり、違った場面で聴かせたりすることができれば、より深い学びになったのではないかということである。